

水筒

人間の体は乳幼児期には 80%以上、成人でも 60%以上が水分で 2%が失われると命にかかわることとなります。人間にとって水が如何に大事なものかが分かります。それだけに清潔な水の確保は重要な問題です。日本のように何時でも清潔な水を水道から得られる国はむしろ珍しいのです。出先となると尚更です。どうやったら清潔な水を得ることが出来るでしょうか。現在ならお店や自動販売機で買い求めることも出来るでしょう。でもそのようなものが無かった時代、無い場所だったらどうでしょう。自分で持っていくしかありませんね。今回は携帯品として水を持っていく道具、すなわち水筒について見ていくことといたしましょう。

水筒はどれくらい昔から使われているのでしょうか。ペルシャでは 5000 年前から使われているとも言いますが実際のところは不明です。しかし紀元前一世紀頃の古代遺跡から革製のものが出土していますので、その当時には既に使われていました。また中国では陶器製のものが使われていました。

左:イスラエルで出土した紀元前一世紀頃の革製水筒

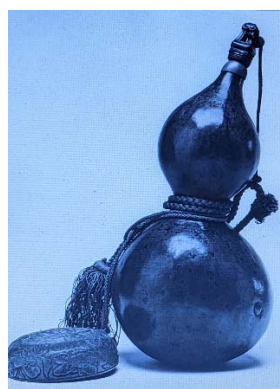
右:中国の陶器製水筒



このような水筒として使われたのは革や陶器だけでなく殺菌力のある青竹筒もよく使われました。またアフリカ原産の瓢箪は軽くて丈夫で大量に入れることが出来るので重宝されました。

左:青竹筒製水筒

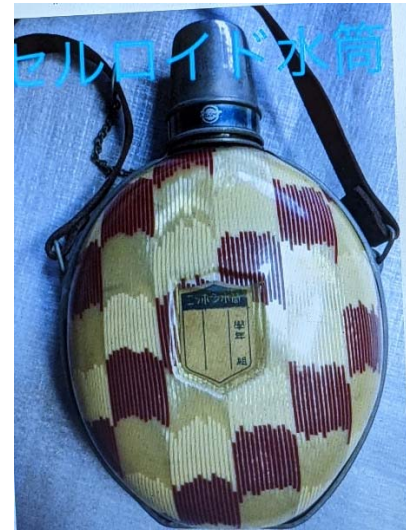
右:瓢箪



時代が進むと軍隊での水筒として金属製のものが現れます。水を運ぶだけでなく直接火にかけて沸かすことも出来る金属水筒は軍用として重宝されました。

左:軍用金属製水筒

中、右:セルロイド製水筒



そのような中で現れたのがセルロイド製の水筒でした。軽くて持ち運びに便利でカラフルで色鮮やかなことから子供には金属製よりもセルロイド製が好まれました。また熱伝導率の違いから比較的保温力があったことも好まれる要因でした。でも熱いお茶などを入れると樟脳の匂いがするという欠点がありました。

少しお金持ちの家の子は魔法瓶を持参しました。でも重たいという欠点がありました。また衝撃に弱く遠足などでは決まって落として割ってしまう子がいたものです。

その魔法瓶の外張りにも色鮮やかなセルロイドが好まれました。今では軽くて耐衝撃性も向上していますので割ってしまうということは殆どなくなりました。

水筒は現在ではペットボトルなどにとって代われようとしています。まだまだ現役です。そしてセルロイドが果たしてきた役割も大きいものがあります。今度外出されるときには水筒を持参されてはどうでしょうか。

※セルロイドハウス横浜館にはかなりの数のセルロイド水筒コレクションを収蔵しています。この中には極めて珍しいものもあり、セルロイド水筒の歴史が良くわかります。